





インフォメーション・コーナー

会 告

「(社)農業土木学会」の名称が「(社)農業農村工学会」に変わりました	106
学会正会員のうち60歳以上66歳未満の会費改定に係る農業土木学会規則の一部改正について	106
社団法人農業土木学会第40回通常総会の報告	107
平成19年度名誉会員の推挙	107
社団法人農業農村工学会代議員について	108
平成19年度農業農村工学会大会講演会企業展示コーナー出展募集	108
平成19年度農業農村工学会大会の交流会に係る時間等の変更について	108
平成20年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再)	109
平成20年度日本農学賞候補の推薦について	109
第31回水の週間「ウォーターフェア07東京」農業用水の展示出展について(再)	109
第31回水の週間記念第22回「水とのふれあい」フォトコンテスト(再)	109
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!	110
平成19年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	110
「農業農村工学会学術基金」の募金について	111
農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録について	111
「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」発行のお知らせ	111
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお知らせと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について	112
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお知らせと編集事務局(投稿先)のお知らせ	112
農業農村工学会誌への投稿お待ちしております!	113
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知(農業農村工学会誌)」平成20年夏季の表紙写真の募集	114
支部講演会の投稿票について	115
第64回京都支部研究発表会の開催について(第2報) 	115
第62回中国四国支部講演会の開催について(第2報) 	116
第36回中国四国支部研修会・第31回地方講習会の開催について(第2報) 	118
平成19年度第46回畑地かんがい研究集会開催のお知らせ 	118
学会記事	120

第75巻8号予定

展望 : 農業の教育力と資源保全対策: 生源寺真一

小特集: 農地・水・環境保全向上対策

農地・水・環境保全向上対策について(制度の概要等): 山村 研吾

兵庫県における農地・水・環境保全向上対策への取組: 川口 義人他

富山県矢木地区における農地・水・環境保全向上対策の取組: 大橋 雅樹

農地・水・環境保全向上対策における環境保全型農業への取組事例: 安岡 澄人

多様な主体による資源管理計画の作成方法: 福与 徳文他

農地・農業用水等の資源保全施策検討会とりまとめ報告: 角田 豊

技術リポート

北海道支部: 重粘土に対するトレンチ(有材)による補助暗渠の施工効果: 久保田利之他

東北支部: 落石法面における危険度評価および対策工の検討: 長岡 学他

関東支部: 台地茶園に水を運ぶ牧之原地区における受益管理GIS: 南 崇他

京都支部: 亀田郷における地域資源の活用と水循環再生の取組み: 越山 直子

中国四国支部: 高知県新荘川における魚道整備: 今橋 真二


九州支部: ゴム引布製起伏堰の施工事例: 高木 陽子

















講座: 生態系配慮の基礎知識(その3)-水田とため池の植物層: 嶺田 拓也

小講座: 農地・水・環境保全向上対策の「活動方針」: 原川 忠典

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成19年8月 28~31日	大会運営委員会	平成19年度農業農村工学会大会 		松江市	74巻12号 75巻136号
平成19年9月 6,7日	農村計画研究部会	第29回現地研究集会 		奈良市	75巻26号
平成19年9月 13,14日	畑地整備研究部会	第46回畑地かんがい研究集会 		名古屋市	75巻7号
平成19年9月 20,21日	農地保全研究部会	第28回研究集会 		美瑛町	75巻45号
平成19年10月 18,19日	九州支部	第88回講演会・第30回地方講習会 		佐賀市	75巻5号
平成19年10月 24~26日	資源循環研究部会	平成19年度研究発表会 		東京都	75巻4号
平成19年10月 25,26日	関東支部	第58回支部講演会 		水戸市	75巻6号
平成19年10月 25,26日	中国四国支部	第62回研究発表会 		宇和島市	75巻67号
平成19年10月 30日	北海道支部	第56回研究発表会 		札幌市	
平成19年10月 31日	東北支部	第51回研究発表会 		福島市	
平成19年11月 1日	東北支部	第41回支部研修会 第31回地方講習会 		福島市	
平成19年11月 8,9日	京都支部	第64回研究発表会 		和歌山市	75巻67号
平成19年11月 8,9日	水文・水環境研究部会	第20回シンポジウム 		岡山市	75巻5号
平成19年11月 15,16日	中国四国支部	第36回支部研修会 第31回地方講習会 		広島市	75巻67号
平成19年11月 20日	北海道支部	第34回支部研修会 		札幌市	
平成20年1月 31日	北海道支部	地方講習会 		札幌市	

「(社)農業土木学会」の名称が「(社)農業農村工学会」に変わりました

名称変更に係る定款の一部改正について(社)農業土木学会第201回理事会(平成19年5月10日開催)、第40回通常総会(平成19年5月23日開催)での議決を経て、平成19年6月4日に主務省庁である文部科学大臣への認可申請を行い6月29日に認可

され同日より「(社)農業農村工学会」(The Japanese Society Irrigation, Drainage Rural Engineering 英文略称表記: JSIDREは、変更なし)に名称が変わりました。

学会正会員のうち60歳以上66歳未満の会費改定に係る 農業土木学会規則の一部改正について

(社)農業土木学会では、第200回理事会(平成19年3月28日)において、平成19年4月1日より60歳以上66歳未満の会員の年会費を改訂することとし、農業土木学会規則第9条第1項に、同(60歳以上66歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。))年額7,200円とする一部改正を行いました。

記

会費(年額)[規則抜粋]

正会員 年額 9,600円

同(60歳以上66歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。))

年額 7,200円

同(66歳以上)

年額 4,800円

学生会員(大学院生)

年額 5,500円

同(学部学生)

年額 2,500円

この改正は、シニア会員の豊富な経験・知識を当学会の支えとしてお力添え賜りたいとする趣旨によるものです。是非皆さまのご理解を頂き、会員資格の継続、あるいは新規ご入会を頂きますようお願い致します。

社団法人農業土木学会第40回通常総会の報告

第40回通常総会を開催したので、報告いたします。

1. 日 時 平成19年5月23日(水) 14:30~15:30
2. 場 所 虎ノ門パストラル 新館4階ブリムローズ
3. 出席者(代議員総数110名)

黒子高夫, 小前隆美, 加藤啓, 市川貞一郎, 油井日出雄, 内田敏夫, 齋藤公三, 齊藤正樹, 鈴木和夫, 油谷敬朗, 松村真三, 二位孝夫, 藤永和生, 奥田透, 岩崎常雄, 福田隆, 北島秀行, 義経賢二, 佐藤公一, 津波古喜正各代議員ほか, 委任状提出による代議員74名, 計94名

4. 開 会

事務局より出席者(委任状提出者も含む。)が, 定款第30条の規定の定足数に達していることを確認し, 有効に成立している旨を告げ, 開催を宣した。

5. 会長挨拶 青山成康会長挨拶

6. 議長選出

青山成康会長を仮議長とし, 定款第28条の規定により議長選出を諮り, 全員一致をもって小前代議員を議長に選出した。

7. 議事録署名人名選出

議長への指名一任により, 議長は次の2名を指名し, 議事録署名人名に選出した。

齋藤公三代議員 奥田透代議員

8. 議案審議

- (1) 議案1. 平成18年度事業報告
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。
- (2) 議案2. 平成18年度収支決算

事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。

- (3) 議案3. 平成19年度事業計画
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。
- (4) 議案4. 平成19年度収支予算
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。
- (5) 議案5. 定款の一部改正
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。
- (6) 議案6. 農業農村工学会細則の制定
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり決定された。
- (7) 名誉会員の推挙
事務局から「第40回通常総会議案」により内容を説明。
原案どおり推挙された。

9. 閉 会

議長は, 以上をもって全議案の審議を終了した旨を述べ, 総会は終了した。上記議決を明らかにするために, 議長及び議事録署名人名は次に記名押印する。

平成19年5月23日

社団法人農業土木学会第40回通常総会
議 長 小前 隆美
議事録署名人 齋藤 公三
議事録署名人 奥田 透

平成19年度名誉会員の推挙

第40回通常総会の推挙により, 次の正会員(敬称略)の方々が名誉会員になりました。これにより名誉会員の現在数は180名になりました。

氏名	選出事由(内規)
古賀 尚武	会員を30年以上継続した80歳以上の者
石山 茂	会員を30年以上継続した80歳以上の者
相馬 恒一	会員を30年以上継続した80歳以上の者
岡部 三郎	会員を30年以上継続した80歳以上の者
高瀬 國雄	会員を30年以上継続した80歳以上の者
武田 健策	会員を30年以上継続した80歳以上の者
原岡 周一	会員を30年以上継続した80歳以上の者
田口 治	会員を30年以上継続した80歳以上の者
山本 淳	会員を30年以上継続した80歳以上の者
佐藤 忠雄	会員を30年以上継続した80歳以上の者
茂野 啓一	会員を30年以上継続した80歳以上の者

東 巖	会員を30年以上継続した80歳以上の者
多田 敦	理 事(1期2年)
矢橋 晨吾	支部長(1期2年)
高山 昌照	学会賞(平成9年)・支部長(1期2年)
川又 政因	評議員(2期4年)
川尻裕一郎	理 事(2期4年)
中村 和也	委員長(7年)
中村 弘	評議員(2期4年)
黒澤 清	理 事(2期4年)
松田 豊	支部長(2期4年)
吉田 良和	評議員(3期6年)
笹井 一男	評議員(2期4年)
古屋 修	評議員(2期4年)
河野 広	理 事(2期4年)

社団法人 農業農村工学会代議員について

各支部の正会員による選挙の結果、次期代議員（任期：平成19年6月1日～平成21年5月31日）に下記の方々が選出されました。

北海道支部

長澤 徹明 土谷富士夫 神谷 光彦 森 繁
岩田 勝男 有好 利典 坂井 秀利 堀井 健次
川本 保雄

東北支部

中野 拓治 江間 敏介 田中 孝明 安部 伸治
佐々木雄康 永倉 正俊 川村 和司 黒子 高夫
川原 幸徳 児玉 健 廣比 雄一 万木 正弘
嶋 栄吉 倉島 栄一 前川 勝朗 加藤 徹
佐藤 照男 美濃眞一郎

関東支部

齋藤 晴美 齋藤 政満 角田 豊 長利 洋
廣瀬 伸 谷貝 一雄 大久保幸雄 細野 安高
船田 重則 相川 文明 内田 敏夫 篠原 慎一
加藤 啓 市川眞一郎 油井日出雄 高居 和弘
上田 隆茂 西村 拓 登尾 浩助 牧山 正男
向後 雄二 内川 義行 小梁川 雅 佐久間泰一

齋藤 公三 松富 恒雄 齋藤 正樹

京都支部

滝本 裕士 早瀬 吉雄 石黒 覚 金木 亮一
中桐 貴生 田中 勉 河野 俊正 永井 良房
小泉 勝 鈴木 和夫 遠藤 知庸 柴代 博明
坪田 洋次 村山 巖 青木 章雄 油谷 敬朗
松村 真三 橋本 雅夫 小谷 正浩 二位 孝夫
藤永 和生 田上 直美 田上 秀彦 白戸 明

中国四国支部

服部九二雄 長束 勇 村上 章 西山 壮一
角道 弘文 松尾 芳雄 伴 道一 中川 敬夫
阿武 隆弘 丸田 雅博 坂根 勇 松本 雅夫
奥田 透 岩崎 常雄 福田 隆 山出 省吾
黒川 義夫 横山 定雄 井上 泰志

九州支部

國弘 実 渡辺 正人 北島 秀行 安楽 敏
上田 堅 義経 賢二 佐藤 公一 上園 次生
津波古喜正 森 健 田中 明 初井 和朗
小宮 康明

平成19年度農業農村工学会大会講演会 企業展示コーナー出展募集

平成19年度農業農村工学会大会運営委員会

平成19年度農業農村工学会大会講演会（平成19年8月28日～30日、島根大学松江キャンパス）では企業展示の会場を設けることになりました。出展を希望される企業がありましたら、下記までお問い合わせ下さい。

【展示場所】講演会会場、10～20ブースを予定（1ブース約5m²）

【参加費】2万円/ブース

【問合せ先】

平成19年度農業農村工学会大会運営委員会事務局

〒690 8504 松江市西川津町1060

島根大学生物資源科学部 木原康孝

Tel 0852 32 6557

FAX 0852 32 6499

E-mail: kihara@life.shimane-u.ac.jp

平成19年度農業農村工学会大会の交流会に係る時間等の変更について

平成19年度農業農村工学会大会の交流会について、学会誌第75巻第6号p.1において連絡しておりますが、次の下線部のとおり時間等を変更します。

交流会 ホテル一畑 2階「平安の間」

（松江市千鳥町30 松江しんじ湖温泉）

平成19年8月28日（火）18:15～20:15

（17:45～18:15 歓迎レセプション 神楽の公演、お茶席）

当日は大学から専用バスを運行します。（16:45頃から順次発車、最終17:40）

交流会終了後はJR松江駅方面へ専用バスを運行します。

平成 20 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 20 年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、第 75 巻 6 号、p 83 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成 18 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 20 年日本農学賞候補の推挙について

平成 20 年度日本農学賞の候補を下記によりご推挙いただきたいと存じます。適当と認められる候補がありましたら下記規程により、平成 19 年 9 月 15 日までにご推薦下さいますよう、お願い申し上げます。

第 3 条 推薦者（正会員）は、毎年 9 月 15 日までに、次の事項を記し、会長に推薦する。

ただし、必要ある場合は推薦者に関係資料の提出を求めることができる。

記

日本農学賞候補推挙取扱規程

第 1 条 この規程により、本学会員で次の条に該当する業績をあげたものに対し、日本農学賞候補に推挙する取扱いを行う。

第 2 条 推挙する業績は、発表された論文または著書とし、本学会を代表する業績として、十分その価値が評価されるものとする。

（イ）候補業績（論文、著書名）

（ロ）候補者氏名（ふりがな）

（ハ）候補者所属、職名、学位

（ニ）候補者連絡先

第 4 条 推挙の決定は、理事会が行う。

第 31 回水の週間「ウォーターフェア 07 東京」農業用水の展示出展について（再）

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア 07 東京』は、例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、農業土木関係諸団体の協力を得て、農業農村工学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年度までと同様に関係団体の協力を得て展示の準備を進め出展することとなりました。

出展準備は、北陸農政局信濃川水系土地改良調査管理事務所が鋭意行っております。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示テーマ 「水との戦い、そして水とともに」

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園 2 - 1）

期 日 平成 19 年 7 月 27 日～7 月 30 日

第 31 回水の週間記念

第 22 回“水とのふれあい”フォトコンテスト（再）

テーマ ・水辺の憩い、水のある風景
 ・くらしの中で毎日使う水
 ・作物や草木を育て、エネルギーを生む水
 ・ダムや水路など水をつくる施設
 ・歴史とともにある街の中の水 等

応募サイズ カラープリント（キャビネ以上ワイド 4 切まで）・デジタルプリントは A4 サイズも可

応募先およびお問い合わせ

〒107 0052 東京都港区赤坂 6 2 8（財）水資源協会内水の週間実行委員会事務局 第 22 回水とのふれあいフォトコンテスト係宛 ☎03 3584 4166（代）

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！

農業農村工学会行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成 18 年 11 月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間 10 cpd、また、通信教育で最大年間 18 cpd で取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつ CPD 機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) にある参加申込書に必要事項を記載してメール (E mail : cpd@cpd.jsidre.or.jp) あるいは FAX (03 5777 2099) でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>) に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(TEL.03 5777 2098)

4. 内容

問題は 3 カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回 10 問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7 割以上正解で 1 CPD、満点で 1.5 CPD が取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

平成 19 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度 (平成 19 年度、原則 1 件 20 万円以内) です。

本年度の申請締切は平成 19 年 9 月 14 日 (金) です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式 (末尾参照) で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申込みください。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容 (申請の意義、準備の状況、将来の展望など) を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件 (助成対象) は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者 (本学会員) をおき、構成員 (本学会員以外も可) は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出及び審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請書作成」の助成金申請様式

締切 (平成 19 年 9 月 14 日)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛 (tkiku@jsidre.or.jp)

必要記載事項：

- (1) WG 名 (または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名 (仮)
- (5) 研究の目的と内容 (500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先 (予定)

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成17年度までに40件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業農村工学会災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、は、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」発行のお知らせ

この度、「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」が発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申込下さい。

書籍名...「農業農村整備事業における景観配慮の手引き」

価格...3,200円（消費税内税、送料学会負担）

規格...A4版 約170ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

水土の知 75（7）

ファックスかメールでお申込ください。様式は問いません。

ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入ください。

II. 個人、会社で購入される場合

現金書留：書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封ください。

郵便振替(00160-8-47993)：振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入ください。

申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5 34 4

(社)農業農村工学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail:maki@jsidre.or.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年6月末には Vol 5 No.2 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
 - ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)
- 水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HP (<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年6月末には Vol 5 No.2 が発刊されました

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするよ

うに配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG

International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 (2006.1.1~2008.12.31)

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment
Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13カ国から14名
- Editing Board 32名
- Managing Editors
Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
Department of Environmental Science, Konkuk University,
Seoul, Korea
- Dr. Yutaka MATSUNO
Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

- Dr. Masaru MIZOGUCHI
Department of Global Agricultural Science, University of
Tokyo, Tokyo, Japan
- Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE
Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)
Kyoto, Japan
- Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG
Department of Bioenvironmental System Engineering, Na-
tional, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

農業農村工学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)	原 稿 締 切 (刷り上げ 4ページ厳守)
11号 農業農村分野のGIS (研究事例)	公募終了	平成19年7月13日
12号 農業用水の利用形態の変化について 社会環境の変化と地球温暖化への対応 (仮)	平成19年7月24日	平成19年8月15日
76巻 1号 農業水利施設の大規模地震対策の取組みについて (仮)	平成19年8月24日	平成19年9月14日
2号		
3号 基幹水利施設のストックマネジメント (仮)	平成19年9月25日	平成19年10月15日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上げ4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E-mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり1ページ(1,800字程度)で、写真を1~2枚程度入れてください。

私の薦める本は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい

第75巻12号テーマ「農業用水の利用形態の変化について 社会環境の変化と地球温暖化への対応（仮）」

農村地域では、混住化や高齢化の更なる進展により社会環境が急激に変化し、農業用水の利用機会や管理する担い手の減少といった、農業水利システムの管理上の課題が生じています。これに対応すべく、新農業水利システム保全対策事業(H16～)等により、農業の構造改革と施設管理の省力化にむけた取組みがなされています。

一方で、地球温暖化との関連ははっきりしないものの、北日本では夏季の気温が上昇しており、既往の営農を行うと乳白米となる可能性が高いことから、田植え時期を遅らせることが推奨されています。また、降雨パターンが変化し、短期間の豪雨が増える

傾向にあります。このように、地域の気象条件や水循環過程も少しずつ変化しており、これに対応した農業や水利用が求められています。

農業水利システムは農業の根幹を支えるものであり、農業農村を取り巻く環境が急激に変化する中でさまざまなニーズに対応するためには、より細やかで機動的な利用管理が求められるところです。そこで、古くて新しい課題である農業水利システムの管理に焦点をあてて、変化する管理体制、生じる課題、もしくは、それに対する解決策にかかる報文を広く募集します。

第76巻1号テーマ「農業水利施設の大規模地震対策への取組み（仮）」

1995年に発生した兵庫県南部地震を契機として、我が国における地震対策への取組みが変化してきました。それまで地震に強く安全だと考えられていた我が国の土木構造物が、想像以上に多くの被害が発生しました。

兵庫県南部地震以降においても、鳥取県西部地震や最近では能登半島地震など震度6弱を超えるような大きな地震が日本各地で発生しており、多くの被害が生じています。その中でも、新潟県中越地震は、貯水池や水路などに被害が発生し、農業水利施設に対して対策の必要性を考えさせられる地震となりました。

中央防災会議においては、東海地震、東南海地震、南海地震および首都直下地震などの発生確率の高い大規模地震について、そ

の地震動の大きさ、震度予測図、被害想定など多岐にわたり検討され公表されております。これらの地域に存在する農業水利施設はもとより、全国各地に存在する農業水利施設にとって、今後これらのデータを有効に活用し、大規模地震対策への対応を行うことが必要な時期にきているのではないのでしょうか。

そこで、今後の農業水利施設における大規模地震対策への一助となるよう、農業水利施設に関する耐震性照査、耐震設計、耐震工等の実施事例あるいはそれに関する技術動向等、農業水利施設を大規模地震から守る取組みに関する報文を、行政分野、研究分野や技術分野などから広く募集します。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知(農業農村工学会誌:旧/農業土木学会誌)」平成20年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構:先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1~12月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。奮ってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業農村工学技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかっていくようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもあります

が、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFFモードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成19年9月30日(夏季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水

利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で

表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各支部講演会担

当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第64回京都支部研究発表会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 研究発表会

- (1) 日時 平成 19 年 11 月 8 日(木)
10:00~17:00(受付開始 9:30~)
- (2) 会場(開会式~講演会~分科会)
和歌山県民文化会館(和歌山市小松原通11)
アバローム紀の国(和歌山市湊通丁北212)
- (3) 会場までのアクセス
・JR 和歌山駅下車バス 15 分, 県庁前下車徒歩 5 分
・阪和高速和歌山 IC より 15 分

天野地区...中山間総合整備事業で整備されたかつらぎ町天野地区を見学します。世界遺産に登録されている「丹生都比売神社」「高野山町石道」が地区内にあり、また、「ホテルの里」として指定を受けたこの地区は、歴史と文化、美しい自然に恵まれた地域です。

・南部コース “地域の活性化とブランド化”

名田地区...県営畑地帯総合整備事業で整備された畑地で施設栽培が行われている現場を見学します。

うめ研究所...日本一の生産を誇る和歌山県産うめの革新的な技術開発を行うために開設されたうめ専門の研究施設です。

西岩代地区...農地開発事業で造成された岩代大梅林を見学します。

稲むらの火の館...濱口梧陵を顕彰、その偉業と生涯を紹介する記念館「濱口梧陵記念館」、津波防災に特化した全国にも例を見ない防災学習施設「津波防災教育センター」を見学します。

2. 情報交換会

- (1) 日時 平成 19 年 11 月 8 日(木) 18:00~20:00
- (2) 会場 アバローム紀の国

3. 現地研修会

- (1) 日時 平成 19 年 11 月 9 日(金)
 - ・北部コース 集合 9:00 JR 和歌山駅
解散 17:00 JR 和歌山駅
 - ・南部コース 集合 9:00 JR 和歌山駅
解散 17:00 JR 和歌山駅
- (2) 内容
 - ・北部コース “未来に残したい地域の財産”
平池水路...池周辺に点在する古墳群と併せて周辺整備を行った平池水路を見学します。
荒見井水路...絶滅危惧 類(環境省の改訂レッドデータブック)に指定されている‘リュウノヒゲモ’を保全しつつ水路改修を行った用水路です。
龍之渡井...大正 8 年に改修された龍之渡井を見学します。この龍之渡井は、登録有形文化財(文化庁)に登録されています。また、この龍之渡井を通る小田井用水路は、疏水百選にも選ばれています。
青洲の里...江戸時代の医学者、華岡青洲の業績を顕彰する施設です。青洲の里は、修復された自宅兼病院兼医塾「春林軒」を中心にして造られた公園で、園内には青洲の遺品などを展示する展示室などがあります。

4. 投稿の申込等

- (1) 原稿投稿先および期限
研究発表申込をされた方は、下記の投稿要領に基づき作成した講演要旨原稿に投稿票(様式は、<http://www.jsidre.or.jp/news/kaikoku/19shibuform.xls>よりダウンロードしてください。)を添えて、平成 19 年 7 月末日までに、下記に届くようお送りください。
〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1
岐阜大学応用生物科学部 生物環境科学講座 西村 直正
& Fax 058 293 2883
E-mail:nnishi@gifu-u.ac.jp
- (2) 投稿要領
 - ・投稿発表者は、農業農村工学会会員とします。
 - ・投稿要領および原稿の書き方については、農業農村工学会ホームページ内の「支部講演会の投稿票について」(<http://www.jsidre.or.jp/news/kaikoku/shibu.pdf>)を参照してく

ださい。枚数は図面を含めて2枚とします。発表時間は12分(質疑応答は3分)です。原稿はそのまま印刷しますので鮮明なものを提出してください。発表の補助道具としてパソコン(OSはWindows,ソフトはPowerPoint 2000)を準備します。データはCD-R,USBメモリーでご用意ください。(OHP,ビデオプロジェクターを希望する場合はご連絡ください。)

5. 参加申込方法

(1) 参加申込

参加申込は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加要領 (<http://www.jsidre.or.jp/newinfo/kyotosanka.htm>) にアクセスし、参加申込書をダウンロードしてください。参加申込書に必要事項を記載の上、電子メールにて morimoto050013@mb.knt.co.jp まで送付して頂きますようお願い致します。(電子メールが使用できない場合は、FAX・郵送でも受付致しますが、事務の簡素化のため電子メールの使用にご協力をお願いします。)

(2) 申込期限 平成19年8月31日(金)

(3) 参加費等 研究発表会 4,500円

情報交換会 5,000円

現地研修会 6,000円(昼食代含む)

(ア) 昼食

会場付近にレストラン等が少ないため、混雑が予想されます。弁当を1,000円/個で受け付けていますのでご利用ください。

(イ) 参加費の納入

申込を受付けた後、近畿日本ツーリスト(株)和歌山支店より9月下旬以降に確認書・請求書を送付いたしますので、内容を確認のうえ、参加費を「6.申込・振込先・問い合わせ先」の振込先へ10月19日(金)までにお振り込みくだ

さい。振込手数料については振込人負担をお願いします。

なお、納入された参加費については、参加の有無にかかわらず返金いたしませんのでご了承ください。

(4) 宿泊施設の斡旋

宿泊の斡旋は近畿日本ツーリスト(株)和歌山支店を通じて行います。ご希望の方は、農業農村工学会ホームページ内の京都支部研究発表会参加要領の部宿泊斡旋施設一覧表の中から施設をお選びいただき、参加申込書に該当するホテルの記号を記載して下さい。なお、客室数の都合上希望に添えない場合がございますのでご了承ください。

6. 申込・振込先・問合せ先

(1) 申込先

近畿日本ツーリスト株式会社和歌山支店 担当: 森本, 中田
〒640 8044 和歌山市板屋町22 和歌山大同生命ビル1F
申込用電子メールアドレス morimoto050013@mb.knt.co.jp
(取消しも電子メールで結構です。)

☎073 431 7224 FAX 073 431 8863

営業時間: 平日 10:00~18:00

休業日: 土・日・祝日

(2) 振込先

三井住友銀行 関東第一支店 普通口座 5663112
口座名 近畿日本ツーリスト株式会社(キンキニッポンツーリストカブシキカイシャ)

7. 事務局

和歌山県農林水産部農林水産政策局農村計画課内
第64回農業農村工学会京都支部研究発表会運営委員会事務局
担当 高瀬, 山崎
☎073 441 2944(直通) FAX 073 425 0287
E-mail: yamasaki_t0004@pref.wakayama.lg.jp

第62回中国四国支部講演会の開催について(第2報)

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



第62回農業農村工学会中国四国支部講演会を10月25日(木)・26日(金)の2日間にわたり、開催いたします。本講演会の講演申込みについては下記のとおりです。多数の講演申込みをお待ちしております。

・日程 平成19年10月25日(木)~10月26日(金)

1. 講演会

(1) 日 時: 平成19年10月25日(木)

(2) 会 場: 南予文化会館

〒798 0040 愛媛県宇和島市中央町2丁目5番地1号

☎0895 24 6800 FAX 0895 24 6808

9:00~ 受付開始

9:45~10:00 開会式 中ホール

10:00~10:10 支部賞表彰式 "

10:10~11:10 特別講演 "

講師: 守山 弘氏(東京農業大学客員教授・ザ!鉄腕! DASH!!「DASH村」の里山博士)

11:20~17:00 一般講演

第一会場 南予文化会館 中ホール

第二会場 南予文化会館 産業振興センター

第三会場 宇和島商工会館 三階ホール

第一,二会場と第三会場は徒歩三分程度の距離です。

17:00~17:15 閉会式 南予文化会館 中ホール

2. 情報交換会

(1) 日 時: 平成19年10月25日(木) 18:00~

(2) 会 場：ホテルクレメント宇和島 クレメントホール

3. 現地研修会

- (1) 日 時：平成 19 年 10 月 26 日（金）
- (2) コース：南予文化会館発 国営かんがい排水事業東蓮寺
ダム【現地研修】 経営体育成基盤整備事業永
長地区【現地研修】 昼食 内子町（八日市・
護国町並保存地区） JR 松山駅 松山空港着
行き先については変更する場合があります。

・講演申込

1. 投稿・講演要領

- (1) 講演原稿
 投稿原稿は，図，表，写真などを含め 1 課題 3 ページ以
 内とします。
 投稿者は，農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）の支部講演会投稿要領に従って原稿を作成し，
 原稿を PDF にしたファイルと投稿票をメールにより下記
 支部事務局宛にお送りください。投稿票ファイルは学会の
 ホームページからダウンロードしてください。その際，メー
 ルの件名は「中国四国支部講演会投稿」としてください。
 受領確認はメールで返信しますので，受領はがきは不要で
 す。なお，発表時間や発表方法などについては後日事務局
 からご連絡いたしますので，発表者（印）の方は必ず連
 絡先メールアドレスをお書き下さい。
 原稿は PDF を原則としますが，それが可能でない場合
 は市販の A4 版上質紙（コピー用紙などをご利用くださ
 い。感熱紙は不可）に印字したモノクロ原稿を，支部講演
 会投稿要領 3）に従って投稿票とともに郵送してくださ
 い。
- (2) 講演資格
 発表者のうち，少なくとも 1 名が学会員であることが必
 要です。
- (3) 講演方法
 個人発表とし，講演補助として液晶プロジェクタのみ準
 備します。
- (4) 講演時間
 1 課題につき 12 分程度です。
- (5) 講演要旨集
 申込みのあった全ての原稿を講演要旨集に収録します。
- (6) 参加申込
 講演者は，講演申込とは別途に参加申込（下記，日本
 旅行松山支店宛）を行い，必ず参加費を納入してください。
- (7) 原稿の締切
 平成 19 年 8 月 31 日（金）必着でお願いします。（遅延
 は不可）
- (8) 講演申込みおよび問合せ先

農業農村工学会中国四国支部事務局 村上 章
 〒700 8530 岡山市津島中 3 1 1
 岡山大学大学院環境学研究科社会基盤環境学専攻
 TEL・FAX 086(251)8881
 E-mail sakura@cc.okayama-u.ac.jp

2. 研鑽賞選考調査票について

当支部では，支部講演会において積極的に成果を発表した
 会員（大学・国立研究機関（独立行政法人近畿中国四国農業
 センターを含む）所属の会員を除く）を顕彰するために研鑽
 賞を設けております。この賞は，同一の口頭発表者が 3 年以
 上にわたって通算 3 回の発表を行った場合に授与されるもの
 で，以前に受賞した人も受賞後の発表が通算 3 回に達すれば
 再度授与されます。

選考調査票は，この発表回数をカウントするための資料と
 しますので，口頭発表者の今回を除く最新の講演（前受賞者
 は受賞対象以降のもの）2 件の題目とその年度を下記様式に
 よりお知らせ下さい。

支部賞（研鑽賞）選考調査票

口頭発表者氏名： _____
 所 属： _____
 学会加入年度： _____
 会 員 番 号： _____

No.	年度	講演題目

・参加申込

- (1) 申込書：所定の申込様式により所属機関ごとに取りまと
 め，下記 5 までお申込み下さい。

【申込様式】

第 62 回農業農村工学会中国四国支部講演会参加申込書

所属機関 _____
 所在地（〒 _____） _____
 連絡者氏名 _____
 TEL： _____ FAX： _____
 MAIL： _____

ふりがな 所 属 氏 名	ふりがな 講 演 希 望	【25 日】 講演会 参加費 (3,000 円)	【25 日】 昼食代 参加費 (1,000 円)	【25 日】 情報 交換会 参加費 (6,000 円)	【26 日】 現地 研修会 参加費 (6,000 円)	合計 (円)	支払 方法 1:前納 2:当日
計	人	人	人	人	人	円	

- 注 1) 出席および必要な場合は 印，欠席および不要の場合は ×
 印をご記入下さい。
- 2) 講演者は，講演希望欄に必ず 印をご記入下さい。
- 3) 25 日の講演会の昼食は，当日「弁当引換所」にて配布しま
 す。（ただし，事前予約者のみ）

- (2) 申込締切日：平成 19 年 8 月 31 日（金）
- (3) 参加費等：講演会 3,000 円
講演会を含め、講演会に参加される方は必ずお支払い下さい。
- 昼食代 1,000 円
情報交換会 6,000 円
現地研修会 6,000 円（内訳：昼食代 1,500 円、資料代 1,000 円、バス借上代 3,500 円）

(4) 参加費の納入方法

参加申込書に支払方法を記入してください。前納の場合は、参加申込と同時に次の銀行口座に振込をお願いします。申込後の取消、変更については、8 月 31 日（金）以前のお申出に限り返金いたします。なお、払込手数料については、振込人負担でお願いします。

【振込口座】

銀行名 みずほコーポレート銀行 十五号支店
口座番号 普通 3101923
名義人 株式会社 日本旅行

(5) 参加申込みに関する問合せ先

株式会社日本旅行松山支店 担当 豊田
〒790 0011 松山市千舟町 5 7 6
☎089 945 0815（代表） FAX 089 932 9091

(6) 学会に関する問合せ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係
関谷、門田、大塚
☎089 912 2540（直通） 089 941 2111（代表）
E-mail:sekiya-katsuji@pref.ehime.jp

(7) 宿泊案内は、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）を参照してください。

第 36 回中国四国支部研修会・第 31 回地方講習会の開催について（第 2 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 日時

平成 19 年 11 月 15 日（木）から 11 月 16 日（金）

2. 会場

広島 YMCA ホール
〒730 8523 広島市中区八丁堀 7 番 11 号
☎082 227 6816 FAX 082 227 3867

3. 問合せ先

広島県農林水産部農林整備局農業基盤室企画調査グループ
上田、山脇
〒730 8511 広島市中区基町 10 番 52 号
☎082 513 3650（ダイヤルイン） 082 228 2111（代表）
FAX 082 228 1301

平成 19 年度第 46 回畑地かんがい研究集会開催のお知らせ

共催：(社)農業農村工学会畑地整備研究部会 (社)畑地農業振興会 後援：愛知県

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 期日 平成 19 年 9 月 13 日（木）講演会

平成 19 年 9 月 14 日（金）現地研修会

2. 講演会

- (1) 会場：「愛知県土地改良会館」会議室（7 階）
〒451 0052 愛知県名古屋市西区栄生 1 18 25
☎052 551 3611（代）

- (2) 日時：9 月 13 日（木） 9 時 30 分～17 時 00 分

- (3) 課題：「畑地かんがいの今日」

東海の国営事業の事例から

東海農政局農村計画部資源課長 菅原 秀男
最近の畑地かんがい資機材について

展示会社 5～6 社

畑地かんがいを巡る施策について

農林水産省農村振興局水利整備課課長補佐 渡邊 史郎
畑地用水計画の現状と展望について

岐阜大学応用生物科学部助教 伊藤 健吾
豊川用水の畑地かんがいについて

豊川総合用水土地改良区事務局長 天野 弘司

愛知県の農業農村整備事業について

愛知県農林水産部農地計画課長 青木 章雄

総合討論（講演の順序、講師は都合により変更することがあります。）

- (4) 会費：9,000 円/人

3. 現地研修会

- (1) 会費：8,000 円/人

- (2) 日時：9 月 14 日（金）

集合時間：8 時 45 分 集合場所：名古屋駅太閤通口
名古屋駅太閤通口出発（9：00）愛知用水受益地区・果樹園（10：00～10：30）愛知用水関連・奥池（10：45～11：15）げんきの郷（11：30～12：00）昼食（12：05～13：00）愛知用水関連・佐布里池（13：20～13：50）中部国際空港（見学）（14：20～15：00）JR 名古屋駅（自由解散）（16：00 頃）

4. 参加申込み

- (1) 講演会、現地研修会に参加希望の方は、下記様式により「FAX」または「郵便」で申し込んで下さい。
- なお、申込者（個人別）の所属先及び農業土木技術者継続教育機構（CPD）の会員の方は番号を備考欄に記入して下さい。

畑地かんがい研究集会参加申込書

所 属					TEL	
					FAX	
申 込 代 表 者	(フリガナ)			住 所	〒	
(フリガナ) 氏 名	講演会		現地研修会		振込み 予定月日	備 考
	出席	欠席	出席	欠席		
ナゴヤ タロウ 名古屋 太郎					8月10日	所属先 農地整備課 CPD 会員番号 NO 1123456
						所属先 農地整備課 CPD 会員番号

[該当するところに 印を付して下さい]

- (2) 申込み先：(社)畑地農業振興会
〒105 0012 東京都港区芝大門1 3 11 YSK ビル6F
☎03 3438 2581 FAX 03 3438 2583
- (3) 申込み期限：平成 19年 8月 17日 (金)
なお、会場の都合により定員になり次第締切りますので早

めにお申込み下さい。

- (4) 参加費用の払込み
上記「畑地かんがい研究集会参加申込書」により申込みと同時に、講演会費および現地研修会費を下記へお振込み下さい。参加費を予め振込めない場合は、振込み予定日を申込書(欄)に記入して下さい。

なお、当日会費を持参されますと、受付が混乱しますのでご遠慮願います。

講演会費および現地研修会費の振込みは、下記にお願いします。(振り込み手数料は、ご負担願います。)

A. 郵便振替の場合

00120 4 95103 (社)畑地農業振興会

B. 銀行振り込みの場合 みずほ銀行 浜松町支店
(普通)口座番号 1180627 (社)畑地農業振興会

- (5) 申込みの取消し、または変更が生じた場合の取扱いについて

講演会費および現地研修会費の振込み後、取消しまたは変更される場合は 8月 16日 (木)までにご連絡頂いた場合に限り全額お返しいたします。

ただし、8月 17日 (金)以降は、半額申受けます。

5. 宿について

各自で、ご手配方お願いします。

農業土木学会選書16

高生産性水田農業と基盤整備

—その事例と展望—

(社)農業農村工学会発行

目 次

I. 本 編	第11章 大区画圃場整備と乾田直播 —福島県原町市高地区—
第1章 直播栽培の技術	第12章 大区画圃場整備と乾田直播 —千葉県印旛沼地区—
第2章 高生産性水田の管理技術	第13章 圃場整備を契機とした集落営農 —新潟県三島町三島南部地区—
第3章 稲作機械化の新技術	第14章 乾田直播栽培—福井県春江町姫王地区—
第4章 高生産性水田における水管理技術	第15章 不耕起乾田直播栽培の適用例 —岡山県岡山市幸田地区—
第5章 大区画水田の基盤整備技術	第16章 大区画圃場の整備と先進的低コスト水田農業 の確立—広島県大和町福田地区—
第6章 大規模水田経営と生産組織 —国際化と日本稲作農業の対応方向—	III. 資料編
第7章 農政の国際規律と土地改良	第17章 パネルディスカッションの記録 「高生産性水田農業と農業基盤整備の展開」
II. 事例編	第18章 高生産性圃場の整備技術 —岡山県鍋島実験農場—
第8章 殖民区画の再整備 —北海道深川市新千代第6地区—	第19章 圃場整備の事業制度の変遷
第9章 大区画圃場整備事業を契機にした集落農業の 再編—岩手県紫波町土館地区—	
第10章 大区画圃場整備と農地の利用集積 —山形県遊佐町月光川右岸地区—	

A 5判 約200 ページ 定 価3,400円 (内税・送料学会負担)
会員特価2,800円 (内税・送料学会負担)
[会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4
(社)農業農村工学会
☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494